

「満洲国」 教員の養成

— 教員留学生を中心に —

20170909 於東洋大学

祝利

本日の流れ

- ▶ 歴史背景
- ▶ 先行研究について
- ▶ 本研究の目的および研究方法
- ▶ 教員留学生について
- ▶ まとめ

歴史背景(1)

- ▶ 1932年3月 満洲国 樹立
教育重心：旧来「三民主義」思想の排除、
「満洲国」の「国家観念」の入植

満洲国の教員の養成

在職中堅教員の再教育：1932年8月 教員講習所

一般教員の検定：1933年より 検定制度

新教員の養成：1934年 高等師範学校・師範学校

教員留学生の派遣：1933年7月

歴史背景(2)－教員留学生の派遣

目的：

「学校教育の実地研究並に、社会状態と文化施設の考察」を通して、「教員の素質向上」、「将来、**我国の教育の画期的な発展**を期する。」

(『東北淪陥十四年教育史料』(第1輯)(武、1989)』72頁より 報告者が訳した)

満洲国教育の発展

資格：

教員留学生は各県、地域より選抜された優秀な者。35歳以下、勤務年数2年以上、教室内聴講できる程度の日本語能力を有する。留学期間は1年間。「**帰国後満二箇年間は原任学校に奉職するを要す。**」(民生部令第十六号、1942年)

(『東北淪陥十四年教育史料』(第1輯)(武、1989)』111頁より 報告者が訳した)

満洲国優秀教員の確保

歷史背景(3)-教員留學生人數・出身

1933年第一回文教部派遣教員留學生一覽

学校名	各省・地方派遣教員留學生数						
	奉天	吉林	龍江	北滿	新京	興安	計
東京高等師範学校	3	1	3	1	1	1	10
広島高等師範学校	4	2	2	1		1	10
玉川学校	1	1	1			1	4
合計（単位：人）	8	4	6	2	1	3	24
補助金（単位：元）	7,680	3,840	5,760	1,920	960	2,880	

【出典：『東北淪陷十四年教育史料』（第1輯）（武、1989）111頁】

【出典：『「満洲・満洲国教育史料集成」第5巻94-96頁満洲国教育史研究会、1993』、『満洲国文教部派遣留学生関係』アジア歴史センター工0445より作成】

学校名	1933 (第一回)	1934.4 (第二回)	1934.11 (第三回)	1935.6 (第四回)	1936.4 (第五回)	計
東京帝国大学	—	5	—	—	—	5
東京工業大学	—	6	—	—	—	6
東京高等師範学校	10	—	7	9	7	33
広島高等師範学校	10	—	7	8	7	32
東京女子高等師範学校	—	—	—	3	—	3
東京高等工芸学校	—	1	—	—	—	1
熊本高等工芸学校	—	4	—	—	—	4
日本女子大学	—	—	1	—	—	1
共立女子職業学校	—	1	—	—	—	1
玉川学校	4	—	5	—	—	9
東京府青山師範学校	—	—	—	2	2	4
東京府師範学校	—	—	—	1	—	1
京都府師範学校	—	—	—	2	2	4
大阪天王府天王寺師範学校	—	—	—	2	2	4
愛知県第一師範学校	—	—	—	2	—	2
広島県師範学校	—	—	—	2	—	2
福岡県福岡師範学校	—	—	—	1	—	1
計 (単位：人)	24	17	20	32	20	113

満洲国教員留学生派遣一覽表

歴史背景(4)-教員留学生の人数

1940－1945年満洲国教員留学生人数表

年度	1940	1941	1942	1943	1944	1945
人数	30	50	33	47	28	28

【出典：『満洲国史』(満洲国史編纂刊行会、1973, 1104頁)】

先行研究について

▶ 満洲国の教員養成に関する研究

①槻木(1990)、大森(1996、1997)、鈴木(2000)、**小谷野(2011)**、杉森(2015)

②王(1989)、楊(2004)、曲(2005)、杜(2009)など

- ・日本人教員の再教育・養成
- ・中国人教員の再教育・養成
- ・教育政策、師範学校
- ・概観

▶ 教員留学生に関する研究

劉(2004)、周(2004)、周(2011)

- ・人数・進路、留学生会、宿舎などに関する基本的な情報の紹介

教員留学生が日本でいかなる教育を受けたのか？

本研究の目的

東京高等師範学校と広島師範高等学校で実施された教員留学生に対する教育についての分析を通して、日本における満洲国の教員養成の特徴の一端を明らかにする。

研究方法

10

➡ 一次史料

- 外務省記録『満洲国文教部派遣留学生関係』(アジア歴史資料センター)

第一回文教部派遣教員留学生 昭和九年五月

第二回文教部派遣教員留学生 昭和十年三月

第三回文教部派遣教員留学生 昭和九年十一月

第四回文教部派遣教員留学生 昭和十年五月

第五回文教部派遣教員留学生 昭和十一年二月

- 『廣島文理科大学 廣島高等師範学校 廣島臨時教員養成所一覽』

(昭和十二年度) (廣島文理科大学、1937)

(昭和十八年度) (廣島文理科大学、1943)

➡ 満洲国の法令・統計資料

『「満洲・満洲国」教育史料集成』(エムティ出版、1993)

『東北淪陥十四年教育史料』(武強、1989)

東京高等師範学校について

- 1886年 設立 日本初の中等教員養成機関
「教育の総本山」
- 1902年 東京高等師範学校に改称
- 1929年 東京文理大学の付属機関
修業年間：3年
学科：文科、理科、体育科
- 1949年 東京教育大学に吸収
- 1952年 廃校

広島高等師範学校について

- 1902年3月 設立 教育の「西の総本山」
- 目的：師範学校、中学校、高等女学校の教員たるべき者を養成し
兼て普通教育の方法を研究する
- 学科：
 - ①文科・理科（4年）、教育科（2年）
 - ②特設予科：1年（1926年設置）留学班：留学生を監督教導などのため
- 1926年 広島文理科大学の附属機関
- 1944年 特設興南科(南方特別留学生のため)
- 1949年 広島大学広島高等師範学校と改称
- 1952年 廃校

【出典：『満洲・満洲国教育史料集成』第5巻94頁、満洲国教育史研究会、1993）、『満洲国文教部派遣留学生関係』アジア歴史センター、2004年5月より作成】

学校名	1933 (第一回)	1934.4 (第二回)	1934.11 (第三回)	1935.6 (第四回)	1936.4 (第五回)	計
東京帝国大学	—	5	—	—	—	5
東京工業大学	—	6	—	—	—	6
東京高等師範学校	10	—	7	9	7	33
広島高等師範学校	10	—	7	8	7	32
東京女子高等師範学校	—	—	—	3	—	3
東京高等工芸学校	—	1	—	—	—	1
熊本高等工芸学校	—	4	—	—	—	4
日本女子大学	—	—	1	—	—	1
共立女子職業学校	—	1	—	—	—	1
玉川学校	4	—	5	—	—	9
東京府青山師範学校	—	—	—	2	2	4
東京府師範学校	—	—	—	1	—	1
京都府師範学校	—	—	—	2	2	4
大阪天王府天王寺師範学校	—	—	—	2	2	4
愛知県第一師範学校	—	—	—	2	—	2
広島県師範学校	—	—	—	2	—	2
福岡県福岡師範学校	—	—	—	1	—	1
計（単位：人）	24	17	20	32	20	113

第一回(1933年)教員留學生

教員留學生名單

東京高等師範學校 十名

王冠青 張健 趙德宣 李壽田 曲振華 邵宇明

楊樹德 高朝宗 時向春 恩和阿穆爾

廣島高等師範學校 十名

李秉琦 費廣泰 王振聲 劉德勤 吳兆祥 趙殿文

王德才 趙翔 那孫孟和 張書翰

玉川學園 四名

陳秉中 常鳳閣 李心測 陶克陶

【出典アジア史料センターE0445・0011より引用】



日滿帝國公使館

林育仁	張彩亭	張錫光	劉富儒	晏佐華	劉紹助	于化鯤	張正廉	宛振聲	氏名
・	・	・	・	・	・	・	・	男	別性
三二	三二	二七	三四	二九	三一	四一	二七	二七	年齡
熱河	・	龍江	・	錦州	・	吉林	・	奉天	籍貫
承德師範學校	熱河省立第一中學校	龍江省立哈爾濱女子師範	龍江省立齊齊哈爾女子師範	錦州省立女子師範學校	錦縣立女子師範學校	濱江省立齊安師範學校	吉林省立吉林女子師範學校	安東省立鳳城師範學校	在職學校
・	・	・	・	・	・	・	・	東京高師	留學學校
英語	地歴	教育	理化學	數理	地育	數學	營學校一般	理化學	美術音樂
・	・	・	・	・	・	・	校長	・	備考

中等學校教員留學生表

第四回(1935年)教員留學生

日滿帝國公使館

林紫宸	劉彭彦	李樹繁	何香札布	楊德甲	李崇壇	王毓文	劉占鰲	安希元	張啓德	郎峻章
・	・	女	・	・	・	・	・	・	・	男
二五	三二	二七	二六	三四	二八	三四	三三	四〇	三〇	二九
關東州	奉天	吉林	興安	・	・	安東	・	吉林	・	奉天
奉天省立奉天女子職業學校	奉天省立奉天女子師範	吉林省立女子中學校	吉林省立蒙旗師範學校	齊々哈爾公立師範中學校	安東縣立安東林科高級中學	安東省立安東林科高級中學	北滿特別區立寬城子兩級中學	哈爾濱初級中學	吉林省立吉林師範學校	奉天省立奉天師範學校
・	・	高師	東京女子	・	・	・	・	・	・	廣島高師
裁縫	刺繡	家事	教育	教育	農林	地歴	地歴	經營	簿記	英語
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

加支印
稿密亞二付

【出典：アジア歴史資料センターE04445『第四回文教部派遣留學生』0065】

【出典：『第五回文教部教員留學生』アジア資料センターE0445-01115-01116】

第五回教員留學生名簿

氏名	推薦省別	原籍	年齢	在職學校	留學々校	希望研究科	備考
穆定安	奉天	奉天(瀋陽)	三〇	奉天省立奉天農科高級中學校	廣島高等師範學校	教育	
李恩權	"	"(鐵嶺)	三一	奉天省立奉天商科高級中學校	"	實業	
汪潤斗	"	"(鐵嶺)	三三	奉天省立奉天師範學校	"	理化	
陳其文	濱江	"(蓋平)	二七	濱江省立哈爾濱第二兩級中學校	"	數學	
曹俊忱	安東	"(瀋陽)	二八	安東省立鳳城師範學校	"	理化	
趙家斌	濱江	"	三一	濱江省立哈爾濱師範學校	"	史地	
鹿延琨	奉天	"	二六	奉天省立奉天師範附屬兩級小學	京都師範學校	體育	
張達齡	"	"(鐵嶺)	二四	奉天市立三經路兩級小學	"	教育	
楊文建	吉林	吉林(九台)	二七	吉林市立迎恩街兩級小學	東京青山師範學校	"	
李春德	奉天	奉天(海龍)	三四	奉天省立奉天第二工科高級中學校	廣島高等師範學校	理化	
胡國書	三江	吉林(永吉)	三四	三江省立依蘭師範學校	"	教育	
金榮盛	間島	河北(北平)	三三	間島省立延吉師範學校	"	數學	
徐仁勇	熱河	"(蓋平)	三〇	熱河省立承德師範學校	"	教育	
魯鴻翎	龍江	奉天(法庫)	三二	龍江省立齊齊哈爾女子師範學校	"	數學	
趙俊廷	"	"(義)	二七	義縣縣立東關師中學校	"	博物	
高而悌	錦州	錦州(錦)	二五	錦縣縣立錦縣師範學校	"	"	
何雲祥	吉林	吉林(永吉)	三五	吉林師範學校	東京高等師範學校	教育	
氏名							

講義題目及時數	手當額	職名	氏名
日本教育制度ニツキ (十二時間)	三〇圓	東京高等師範學校教授 附屬中學校主事	馬上 孝太郎
教育學 (十二時間)	三〇	全 附屬小學校主事	佐々木 秀一
教授法 (六時間)	二〇	東京高等師範學校教授	石山 修平
兒童心理學 (六時間)	二〇	東京文理科大學助教授	武政 太郎
全 (六時間)	二〇	東京高等師範學校講師	丸山 良二
理科教授法 (六時間)	二〇	東京高等師範學校教授	内藤 卯三郎
一般日本國情 (十五時間)	四〇	東京文理科大學教授 兼東京高等師範學校教授	諸橋 徹次
滿洲ト日本トノ關係 (六時間)	二〇	東京文理科大學助教授	内田 寛一

實地指導

指導科目	手當額	職名	氏名
指導主任	三〇	東京高等師範學校教授 外國學生主任	山本 政論
中學校指導主任	二〇	東京高等師範學校教諭	岩井 良雄
中學校 (修身公民科)	一〇	全	原 了
(國語漢文科)	一〇	全	田口 福司朗
(歷史科)	一〇	全	淺海 正三
(地理科)	一〇	全 兼教授	山本 幸雄
(英語科)	一〇	東京高等師範學校教諭	村岡 博
(數學科)	一〇	全 兼教授	鍋島 信太郎
(物化科)	一〇	全	藤木 源吾
(博物科)	一〇	東京高等師範學校教諭	山口 俊策
(体操科)	一〇	東京高等師範學校教諭	廣井 家太
(圖畫科)	一〇	東京高等師範學校教授 兼教諭	板倉 贊治
小學校指導主任	三〇	東京高等師範學校訓導 兼教諭	佐藤 保太郎
(各科)	二〇	東京高等師範學校教授 兼教諭	安東 壽郎
(全)	二〇	東京高等師範學校助教授 兼訓導、教諭	中島 海

【出典：『文教部滿洲国派遣教員留学生指導教官手当支給』アジア資料センターE0445-0131】

教授内容とその実態(1)

■ 第三回 広島高等師範学校 (1934年11月)

「付属学校ノ教授訓育其他実地見学ヲ中心」、

「本月十六日到着シ目下国語練習中」

【出典:アジア歴史資料センターH-0445『第三回文教部派遣留学生』0031】

■ 第四回 東京女子高等師範学校(1935年)

「三人トモ日本語ノ知識不足ナルヲ以テ毎日午後、日語学院ニ於テ日本語ノ学習ヲナサメシタル。其ノ結果、聞き分ケルカハ相当ナレルモ話スカハ未タ辿々シキヲ免レズ」

【出典:アジア歴史資料センターH-0445『第四回文教部派遣留学生』「満洲国留学生ニ関スル報告書」0100】

教授内容とその実態(2)

■ 見学旅行

- ・ 1937年3月16日～26日
- ・ 第5回教員留学生 東京高等師範学校・青山師範学校
- ・ 学校・遺跡見学
東京→山田→京都→奈良→大阪→神戸→岡山→高松
→別府→大分→熊本→島原→長崎→博多→下関

教員留学生による回想

- 王氏（1913年、長春生まれ）
師範学校を卒業して、新京（長春）県立第二小学校で体育と音楽を教えていた。
第三回目の教員留学生として玉川学園に入った。
- 第一回、二回目の教員留学生は報告を出した。
- 毎日日記をつけ、時間通りに学務司へ出す

注：王国琪「日偽統治下の長春市中小学」『長春市文史資料』第1輯長春市政協文史委員会編内部発行1986年
64-68頁 本報告では『「満州国」日本留学史』（劉、2005）107-108頁より引用

まとめ：教員留学生に対する教育

- 多様な民族から構成
- 教授内容
 - ・ 日本語(国語)
 - ・ 教育に関する一般科目
 - ・ 日本の教育制度、日本事情
 - ・ 日満関係
 - ・ 日本の風土、文化

満洲国への日本に関する知識の普及

今後の課題

- 満洲国の教員留学生による回想
- 日本の学校についての調査
- 満州国教員の養成の体系を再構築

主な参考文献

- 王野平(1989)『東北淪陥十四年教育史』吉林教育出版社
- 槻木瑞生(1990)「「満洲」に於ける教員養成—「満洲国」師道学校について」『総力戦下における「満洲」の教育、科学・技術政策の研究』学習院大学東洋文化研究所
- 大森直樹(1996)「「満洲国」日系初等教師のライフ・ヒストリー」『東京学芸大学紀要(I部門)』(48)
- 大森直樹(1997)「「満洲国」における日系初等教師政策」『近代日本のアジア教育認識—その形成と展開』平成6・7年度科学研究費(総合A)研究成果報告書(課題番号:06301037)研究代表者:阿部洋
- 鈴木健一(2000)『満洲教育史論集—古稀記念』山崎印刷出版楊家余2005『内外控制の交合—日儀統制下の東北教育研究(1931—1945)』安徽大学出版社
- 周軍(2004)「「満洲国」留学生と広島高等師範学校」『広島東洋史学報』第9号 72—82頁
- 劉振生(2004)『「満洲国」日本留学史研究』吉林大学出版社
- 曲鉄華他(2005)『日本侵華教育全史』第1巻 人民教育出版社
- 周一川(2011)「奈良女子高等師範学校における「満洲国」留学生」『人文学研究所報』45号 63—76頁
- 小谷野邦子(2012)「「満洲」における教員養成」『茨城キリスト教大学紀要』第45号 245—259頁
- 杉森知也(2015)「「満洲国」における中等教員養成—日本人教員の再教育と養成の開始に着目して」『研究紀要』79-93頁

本研究は平成28年度三菱財団人文科学研究助成「『大東亜共栄圏』における日本語教育の実相と実践(研究代表者：酒井純一郎)」の一部です。

ご清聴、
ありがとうございました。

